

## 「浅間山は危険な火山か？」

お茶の水女子大学附属小学校 田中 千尋

浅間山の火山活動が活発になると、宿泊施設や観光施設に、必ずキャンセルが出る。貸別荘を営んでいる私の友人も「過剰な報道でキャンセルが出ている」と嘆いていた。長野原町立の火山博物館も、夏の学校団体のキャンセルが相次いでいるという。私はこの現象を、大変残念に思っている。

我が国には、噴気活動が見られる火山観光地は数多い。歴史的景観地、海辺の街などを除けば、日本の観光地のほとんどは、火山が関係しているともいえる。温泉も大部分は火山由来である。その中でも、浅間山は日本有数の活火山である。山頂からの噴気や噴煙を常に見られる火山は、浅間山と桜島だけだろう。浅間こそ、火山国日本を代表する、一流の火山なのだ。



「常に山頂から噴気をあげる浅間山」

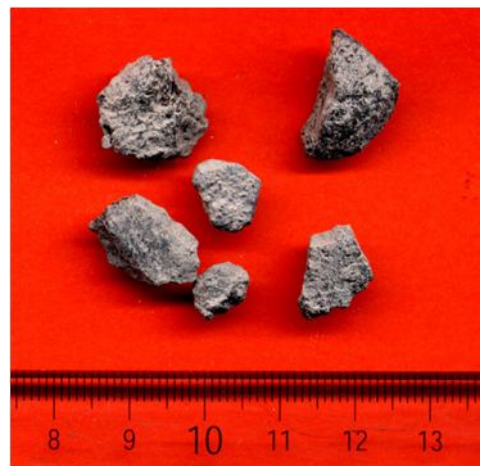
こうした白煙(噴気)には、碎屑物(火山灰や火山礫)は含まれていない。温泉街や箱根大涌谷の噴気と同じ火山ガスと水分である。しかも、麓まで降下することはほとんどない。2004年9月撮影 北軽井沢

さまざまな観光施設に影響が出る一方、浅間の活動が活発化すると、写真家の数は激増する。それも昼間だけでなく、夜間でもある。浅間山は山頂にすり鉢状の火口があるので、火山活動が活発になると、火口上空に火映現象が見られるようになる。これがカメラマンの絶好の被写体になるのだ。特に車で行ける、火口から最も近い火山博物館周辺の道路には、必ずカメラマンの姿が見られる。



「浅間山の火映現象」 2004年9月撮影 北軽井沢  
まさに「火の山」と呼ぶにふさわしい景観だった。

浅間山の場合、気象庁、大学、その他公的機関・私的設置(私もその一人)の観測網が非常に充実し、噴火が起きる前には、確実に警報が出される。2004年の噴火時には、確かに山麓に火山礫が降ったが、死者はもちろん、怪我人すら出なかった。(正確には、噴火音に驚いたアサイマートのおばあちゃんが、降ってきた火山礫で顔にすり傷ができた。)



「山麓に降った火山礫」 採取; C. Tanaka  
定住者がいる場所では、これが最大の大きさだった。  
北軽井沢栗平で採取 2004年9月1日の噴火時

浅間山は、安心して観察できる安全な活火山なのだ。活動が活発な今だからこそ、その誠に火山らしい姿を、多くの方に見に来てほしいと、私は願っている。